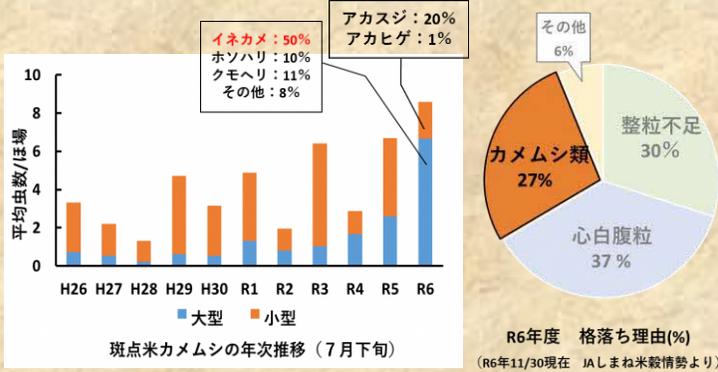


# イネカメムシの被害を 最小限に抑えましょう！！



## 県内の発生状況

(県農業技術センター調べ)



- ・イネカメムシが**R5年に急増**
- ・等級格下げ理由の**3割**がカメムシ類

## 加害特徴

- ・**イネのみ**に加害
- ・出穂直後に刺し吸汁すると稲が**不稔**  
乳熟期に刺すと**基部斑点米**



不稔稲



不稔(左)と健全(右)



基部斑点米

**防除をしないと  
大幅な減収となる危険が！！**

## 防除方法

### ・薬剤防除

商品名	希釈倍率・使用(液)量(/10a)	使用時期	本剤の使用回数	備考
キラップフロアブル	1,000~2,000倍・60~200L	収穫14日前まで	2回以内	
スタークル液剤10	1,000倍・60~150L	収穫7日前まで	3回以内	
エクシードフロアブル	2,000倍・60~150L	収穫7日前まで	3回以内	
トレボン乳剤	2,000倍・60~150L	収穫14日前まで	3回以内	
キラップ粒剤	—・3kg	収穫14日前まで	2回以内	
スタークル豆つぶ	—・250g	収穫7日前まで	3回以内	湛水散布

※必ず農薬ラベルに記載の適用作物、使用時期、使用方法を十分確認の上使用してください

### ・薬剤散布のタイミング

- 1回目) 出穂期 (全莖数の40~50%が出穂)
- 2回目) 1回目散布の10日後

※) 粒剤を使用する場合、処理を数日早めてください

# イネカメムシの生態を 理解して防除に役立てよう！！

## 生態サイクル

越冬世代成虫がほ場に飛来  
卵を産み、世代交代



成虫



卵



ふ化幼虫



終齢(5齢)幼虫



若齢幼虫

成虫が不稔籾  
幼虫が斑点米に関与

提供) 島根県農業技術センター



参考) 農研機構 中日本農業研究センター 転換畑研究領域栽培改善グループ 石島力氏  
「斑点米カメムシ類の被害及び防除法～特に近年問題となっているイネカメムシを中心に」

※地域によって第二世代が出現している可能性があります  
世代交代により被害の拡大や長期化が懸念されるので、  
出穂の早い品種から防除を行い密度を下げましょう

## 生態特徴

- ・1年の間に早生品種から晩生品種へと**移動、加害します**  
→早生品種からの防除により密度を下げましょう！
- ・日中はイネの株元に潜み、**夜間から午前中に穂へ来ることが多い**  
→気づかない間に、ほ場内に潜んでいる可能性があります！
- ・刈り取り後の**二番穂(ひこばえ)にも発生を確認**  
→秋耕こしを早期に行うことで、翌年の発生源となるイネカメムシの生息場所を減らしましょう！